

原著 (Article)

小学校 1 年生の国語科教育における 「乗り物紹介型説明文教材」の特質と指導方法

Teaching materials of vehicle description text and these
teaching methods on elementary school first grader in
Japanese language education

森 和久*
MORI, Kazuhisa*

キーワード：国語科教育，小学校 1 年生，説明文教材

Key words：Japanese language education, elementary school first grader, description text

1. 小学校 1 年生の「乗り物紹介型説明文教材」の類似性

小学校 1 年生の国語の教科書には，発行者が異なっても同じ内容の説明文教材が見られる（表 1）。

表 1. 「乗り物紹介型説明文教材」の教材名・取り上げている題材の比較

発行者	教材名	取り上げている題材
東京書籍	いろいろな ふね	客船，フェリーボート，漁船，消防艇
学校図書	くらしを まもる 車	救急車，消防自動車，ごみ収集車
三省堂	ぼうしの はたらき	通学帽，給食帽，麦わら帽子
教育出版	はたらく じどう車	バス，コンクリートミキサー車，ショベルカー，ポンプ車
光村図書	じどう車くらべ	バス・乗用車，トラック，クレーン車

教材名でわかる通り，5 社のうち，4 社が乗り物，そのうちの 3 社が自動車を扱っている。具体的に取り上げているものは，バス，救急車などの働く自動車，そしてそれに照応しているかのような客船，フェリーボートなどの船，そして，乗り物という範疇からは全くはずれるが，通学帽，給食帽などの帽子である。

取り上げている題材については，「帽子」以外は，入学以前から絵本，図鑑，ビデオ映像，おもちゃなどで多くの子どもが親しんでいる「乗り物」を取り上げている。各社の 1 年生で扱う最初の説明文は全て動物を題材にしているのと同様，児童の興味関心の高い題材を取り上げていると考えられる（以下「乗り物紹介型説明文教材」と呼ぶ）。

「乗り物紹介型説明文教材」は，取り上げている題材の類似性も高いのであるが，さらに，その文章構造もよく似ている。どの教材もいくつかの乗り物（帽子）を紹介

する3つないし4つの段落が、文章の中心となっている。表1にある通り、例えば、学校図書版では、救急車、消防自動車、ごみ収集車が3つの段落で紹介されているが、各段落は、並列されており、例えば、救急車と消防自動車を入れ替えても、文章の流れに破綻は生じないし、ショベルカーを追加しても、何かと差し替えても文章は成立する構造になっている。

では、乗り物等を紹介している各段落はどのような記述になっているのだろうか。各社の記述例を表2に示す。

表2. 「乗り物紹介型説明文教材」の記述の比較

発行者	乗り物等の紹介の一つの段落の記述
東京書籍	① きゃくせんは、たくさんの人をはこぶためのふねです。(やく目) ② このふねの中には、きゃくしつやしよくどうがあります。(つくり) ③ 人は、きゃくしつで休んだり、しよくどうでしよくじをしたりします。(p.38)
学校図書	① きゅうきゅう車は、けがをした人や、きゅうびょうの人を、びょういんへはこびます。(はたらき) ② そのために 、車の中で、かんたんな手あてができるようになっていきます。また、まわりにあいずを出して、はやくはしることができます。(くふう)(p.9)
三省堂	① 上のえのぼうしは、がっこうのいきかえりのときにかぶるぼうしです。 ① じどうしゃやじてんしゃにのっているひとに、みなさんがあっていることをしらせるはたらきがあります。(はたらき) ② そのために 、よく目だついろをしています。(いろやかたち)(p.27)
教育出版	① バスは、おおぜいのおきゃくをのせてはこぶじどう車です。(やくわり) ② ですから 、たくさんのごせきがあります。つりかわや手すりもついています。(つくり) ③ バスは、おおぜいのおきゃくをのせてきまったみちをあんぜんにはしります。(p.13)
光村図書	① バスやじょうよう車は人をのせてはこぶしごとをしています。(しごと) ② そのために 、ごせきのところが、ひろくつくってあります。そとのけしきがよく見えるように、大きなまどがたくさんあります。(つくり)(p.29)

* 表中の丸数字、ゴチック、()は筆者による。分かち書きは省略している。

** 各発行者は教科書の「学習の手引き」で、表2内の()で示したように、「やく目」「つくり」(東京書籍 p.44)、「はたらき」「くふう」(学校図書 p.12)、「はたらき」「いろやかたち」(三省堂 p.32)、「やくわり」「つくり」(教育出版 p.17)、「しごと」「つくり」(光村図書 p.32)と①②の段落を位置づけている。

それぞれの段落は、表2にあるように、まず①の段落では、「やく目」「はたらき」「やくわり」「しごと」、すなわちその乗り物(帽子)に特化した「目的」が記述されている。そして②の段落では、「つくり」「くふう」「いろやかたち」、すなわち「目的」を果たすために必要な「特徴」が記述されている。この①②のみの構成になっているものが3社(三省堂は、①の前に、①「ぼうしの種類」を示す段落があるが、内容的に①と①で他社の①の段落に相当しているためここに含めている。)、①②に加えて③の段落で「特徴」の活用の仕方を記載しているものが2社ある。

また、「目的」と「特徴」をつなぐ接続詞として、ゴチックで示したように、3社が「そのために」1社が「ですから」を用いている。どの社も、紹介するものは違って

いても、「目的」と「特徴」を述べるという基本構造を繰り返している。以上のように「乗り物紹介型説明文教材」は、取り扱う題材、文章構造の類似性が極めて高い教材群である。

2. 「乗り物紹介型説明文教材」の特質を生かした学習活動

(1) 比較し、本質を把握する

1で述べた基本構造から、「乗り物紹介型説明文教材」は次の学習活動を行うのに適していると私は考える。

- ① 紹介されている物を比較し、その物の本質を把握する学習
- ② 比較し、その物の「目的」につながる「特徴」を選択する学習

まず、「紹介されている物を比較し、その物の本質を把握する学習」について述べる。「乗り物紹介型説明文教材」は、「目的」「特徴」の説明をいくつか並列する構造を有する。紹介される物は、時間的順序性や説明の順序性があるて並べられているわけではない。また、「フェリーボートはきやくせんちがって、くるまをとめておくところがあります。」のような比較する文章が書かれているわけではない。したがって、多くの実践では、各段落を個々に読み取り、「目的」と「特徴」を表にまとめるなどしている実践が多い。

しかし、自動車という上位概念に対して、下位概念の「バス」「乗用車」「救急車」は、その共通性によって「自動車」という括りに入り、その差異性によって、個々の自動車に分類されているのであって、他との比較が背景にあって初めて、その分類が成り立っている。そして、その違いが生まれる所以は、その用途すなわち「目的」である。人が意図をもってつくったものである限り、「目的」の違いによって「特徴」の違いが生じているのである。つまり、「バス」の本質を把握するということは、「多くの人を乗せる」というバスの他の自動車とは異なる目的を把握するとともに、目的を達成するために生じている他の自動車と異なっている特徴（たくさんの座席があるということ）を把握することである。そして、バスについて説明するということは、この本質を説明するということである。

光村図書の「じどう車くらべ」には、「バスやじょうようしゃは、人をのせてはこぶしごとをしています。そのために、ざせきのところが、ひろくつくってあります。(p. 29)」という記述がある。この文章を「しごと：人をのせてはこぶ」、「つくり：ざせきのところが、ひろくつくってある」と表にまとめることは簡単である。しかしそれだけでとどまっていたら、この文章を理解したことにはならない。即ち、「バスや乗用車」の本質を理解したことにはならない。下手をすると「座席のところが広い」ということを「座席が広い」と勘違いをし、「バスの座席はそんなに大きくないのに

おかしいな。」というような思いを持った子どもをそのままにしている可能性がある。

「座席のところが広い」という説明は、バスや乗用車の全体構造の中における「座席がある部分」の割合が高いということであり、その割合が「高い」かどうかは「トラックやクレーン車に比べて」はじめて成り立つ説明である。

「乗り物紹介型説明文教材」は、「自動車」「船」「帽子」という上位概念に対して、下位概念のいくつかを紹介するという構造になっているため、そこには必然的に比較の思考が働くのであり、その思考を働かせて読まなければ読んだことにはならないのである。

しかしながら、「比較」ということの取り上げ方は、表3のように各社まちまちである。「学校図書」「三省堂」「光村図書」は、教科書そのものに児童向けの言葉で、「くらべる」ということが示してあるが、「東京書籍」「教育出版」にはその記述はない。また各社の教師用指導書では、「教育出版」以外は何らかの記述がある。

表3. 「乗り物紹介型説明文教材」の「比較」に関する記述の比較

発行者	比較に関する教科書の記述	比較に関する指導書の記述
東京書籍	記載なし	「四枚の写真を比較しながら予想させると、一つ一つの船の特徴が際立ってくるだろう。」「単元導入の工夫」(p. 97)
学校図書	「じどう車くらべをしよう」(p. 8)	比べることについては、「働き」について、「工夫」について、というように観点をもって、同じ点(似ている点)や違う点を比べると分かりやすい。「学習活動(言語活動)の設定について」(p. 15)
三省堂	「ちがいに気をつけてよう」(p. 26)	三つのぼうしの特徴を読み取り、違いに気づく。「学習指導の目標と系統」(p. 76)
教育出版	記載なし	記載なし
光村図書	「くらべてよう」(p. 28)	自動車について、その違いを明確にする。「指導上の留意点」(p. 68)

このように、「乗り物紹介型説明文教材」において、多くの発行者が「比較」ということの重要性を認識していると考えられるが、指導書に載っている具体的な指導例には、あまり、比較に関する発問や学習活動が出ていないのは、残念なことである。

私は、各段落で「目的」と「特徴」の表をつくって、それで終わりではなく、次のような「比較」する場面を取り入れることが、その物の本質を理解するために必要なのではないかと考える。「じどう車くらべ」(光村図書)を例に、バス、乗用車、トラック、クレーン車を紹介する各段落を学習したあとの学習の流れを示す。

T いろいろな自動車について勉強してきたね。どんな自動車について勉強したかな。

C バス

C 乗用車

- C トラック
- C クレーン車
- T 4つの自動車について「しごと」と「つくり」を勉強してきました。では、みなさんに聞きます。4つの自動車のどの自動車にもついているものは、何でしょうか。思いついただけ、ノートに書きなさい。
- C ハンドル
- C タイヤ
- C ライト
- C 座席
- T どうしてみんなハンドルがついているのかな。
- C 走るときにハンドルがないと曲がれないから。
- T どうしてみんなタイヤがついているのかな。
- C タイヤがないと走らないから。
- T 自動車は、どれもハンドルやタイヤがついているんだね。では、4つの自動車の中でいちばんタイヤが多いのはどの自動車ですか？
- C トラック
- T それはどうしてですか？
- C 重い荷物を乗せて走らなければいけないから。
- T クレーン車もすごく重いにもつを持ち上げると思うんだけど、教科書の絵だとタイヤは4つしかついていないけどどうしてかな？
- C クレーン車は、つり上げた荷物を持って走らない。
- T じゃあ、いちばんざせきがたくさんある自動車はどれですか？
- C バス
- T それはどうしてですか？
- C 大勢の人を乗せなければいけないから。
- T じゃあ、他の自動車にはないけれども、この車にだけついているよっていうものを書き出してみましょう。
- C クレーン車のクレーン
- C トラックの荷台
- C バスのつり皮
- C バスの押しボタン
- T いくつか出してくれたね。それはどうしてついているのか、考えてみましょう。
- T では出てきたものの中で、好きな物を選んで、どうしてその自動車についているのか、隣の人に説明してみましょう。
-
- T 説明できたかな。では、何人かに発表してもらいます。クレーン車のクレーンはどうしてついているのですか。

- C 重い荷物を持ち上げるためです。
.....
- T いろいろな自動車があって、比べてみると似たところや違うところがあることがわかりますね。

このように4つの自動車を比較する学習を行うことで、「ざせきのところが広い」「広いにだい」「タイヤがたくさんついている」ことの意味を真に理解するとともに、それぞれの自動車の本質を理解することができると思う。

(2) 比較し「目的」につながる「特徴」を選ぶ

「乗り物紹介型説明文教材」は、「目的」と「特徴」という分かりやすい構造を持っていること、紹介されている物が単に並列されているだけでいくらかでも追加可能であること、児童が調べやすい題材であることから、教材文を真似て文章を書く活動に発展させやすい。この特質を踏まえて、各社とも、以下のように発展的な学習を提起している。

表4. 「乗り物紹介型説明文教材」の発展学習の比較

発行者	教科書における 発展的な学習の記述	指導書における 発展的な学習の評価に関する記述
東京書籍	ほかののりもののことをしらべて、カードにかこう。(p. 46)	乗り物の特徴が伝わるように、語と語のつながりを意識しながら、カードに整理して書いている。(p. 94)
学校図書	くらしをまもる車には、ほかにどんなものがありますか。はたらきとくふうをしらべましょう。(p. 12)	調べた車について「働き」と「工夫」に分けて書いている。(p. 17)
三省堂	みなさんはどんなときにどんなぼうしをかぶりますか。つたえあいましょう。(p. 33)	自分が説明したいと思うぼうしを選び、そのぼうしについてはたらきと特徴を文章に書いている。(p. 86)
教育出版	『はたらく じどう車』でくしゅうしたことをおもいだして、のりもののことをわかりやすくしらせるぶんしょうをかきましょう。(p. 20)	自分が選んだ乗り物について、「やくわり」や「つくり」を考えてカードに書いている。(p. 51)
光村図書	ほかに、どんなじどう車がありますか。しごととつくりをかきましょう。(p. 34)	調べた自動車について、「しごと」と「つくり」を「そのために」を使って書いている。(p. 79)

表4の評価を見ると、学校図書は「働き」と「工夫」、三省堂は「はたらき」と「特徴」、教育出版は「やくわり」と「つくり」、光村図書は「しごと」と「つくり」を子どもに書かせることを目指していることがわかる。この表では、東京書籍は「特徴」という言葉しか見られないが、子どもが書いたものを読み合う活動の場面では「『やく目』『つくり』『できること』の事柄ごとに、だいじな言葉や文を見つけながら文章を読んだことを確かめている。」(p. 95)と評価が書かれており、「目的」「特徴」

を書かせることを意図している点では、各社共通していると言える。

図鑑などを調べ、子どもたちが「目的」と「特徴」を書く活動は、どの学級でも比較的、楽しく順調に進められる。しかし、これまで私が見た授業でありがちなことは、例えば自動車の場合、「救急車は、急病の人やけがをした人を病院まで運ぶ自動車です。そのために、ハンドルやタイヤがついています。」のように、必ずしも「目的」に直結しない「特徴」を書く子どもが出るということである。これは、先に述べたような、読みの授業の段階で「比べる」学習を行わずに、単に教科書に書いてある「目的」と「特徴」だけをまとめるだけに留まっていることに要因がある。

また、もう一つの要因として自分が調べた絵本などで、自分の興味を持つことがあるとそれに引きずられて、「目的」との結びつきを忘れてしまうことがある。例えば、新幹線について調べた子どもが、短時間で車両をきれいにするための掃除道具について触れているページに興味を持ち、「しんかんせんはすごいはやさでおきゃくさんをのせて走るれっしゃです。そのために、とくべつなそうじきをのせています。」と書くようなことである。そして、記述を個々の児童に任せ、このことの是非について吟味されないままになってしまう場合がままある。

これは言うまでもなく、新幹線の本質をとらえているとはいいがたい、新幹線の「速さ」という他の列車と異なる目的を把握するとともに、目的を達成するために生じている他の列車と異なっている特徴を把握すれば、(1年生がどのような表現をするかは別として)「空気抵抗を少なくするためのカモノハシのような先頭車両の形」や「高速走行に伴う気圧変動に対応するための気密構造」などがあげられなければならない。

このような、「目的」と結びつかない「特徴」があげられることを防ぐために、次のような学習活動を提案したい。

- ① 紹介したい物を決める。
(例：ポンプ車)
- ② 紹介したい物の目的をしらべる。
(例：火事を消す)
- ③ 紹介したい物の特徴をできるだけ書き出す。
(例：ハンドル、タイヤ、サイレン、ホース、放水銃)
- ④ 書き出した特徴を比べ、一番、目的に合致しているものを選ぶ。
(例：ホース、放水銃)

④の活動場面では、「その自動車だけの『つくり』を選ぶ。」「その自動車の『しごと』に合った『つくり』を選ぶ。」という選択基準を持たせ、例を取り上げて全体で考えたり、個々の選択をグループで確認しあったりするとよい。

読むことの学習の中で、共通点と相違点をあげさせ、目的に合致した特徴を考えさ

せたように、まずは特徴と思われる物を出せるだけ出させておいて、いちばん目的にぴったり合う物を選ぶという活動を取り入れることによって、単なる興味のあることを、文章の形式にだけ合わせて文章を書くということではなく、紹介するものの本質をつかんだ説明ができるようになると思う。

3. まとめ

「乗り物紹介型説明文教材」の読むことの学習場面、書くことの学習場面において、「比較」を取り入れた学習を行うことによって、目的と結びついた物の特徴を把握することができるのではないかと考え、授業の具体像を提案した。今後は実践とその結果を踏まえ、さらに考察を深めていけたらと考える。

謝 辞

本稿は、平成28年11月1日に、名古屋市立岩塚小学校において、「はたらく自動車」(教育出版)の授業を見せていただき、そのとき得た課題意識に端を発する。貴重な機会をいただいた岩塚小学校の皆さんにこころより感謝申し上げます。

■引用文献

小学校1年生国語教科書

小森茂 他 (2015) 新編 あたらしいこくご 1下 東京書籍

浜本純逸 他 (2015) みんなとまなぶ しょうがっこうこくご1ねん下 学校図書

中瀬正堯 他 (2015) しょうがくせいのこくご 1年下 三省堂

田近洵一 他 (2015) ひろがることば しょうがくこくご 1下 教育出版

甲斐睦朗 他 (2015) こくご一下 ともだち 光村図書

小学校1年生国語科指導書

新編新しい国語一下 教師用指導書研究編 東京書籍

みんなとまなぶ しょうがっこうこくご 一ねん下 教師用指導書解説編 学校図書

しょうがくせいのこくご一年」学習指導書 下 三省堂

ひろがる言葉 小学校国語 1下 教師用指導書解説・展開編 教育出版

小学校国語学習指導書 一下 ともだち 光村図書